

集中豪雨とは何か

日本は地理的に、冷たい空気を育てる大陸と暖かく湿った空気を育てる海洋にはさまれています。そのため、日本上空では寒・暖両気流の接触によって、前線や低気圧が発生しやすく、しばしば日本各地に、集中豪雨による土砂被害などをもたらしています。

集中豪雨は、短時間に局地

的な大雨を降らすものです。昭和57年7月、長崎県では集中豪雨により、死者・行方不明者が299人にもものぼりました。この時は1時間に128ミリの大雨が降り、わずか3時間のあいだに、長崎の7月の平均雨量(314ミリ)を上回りました。

集中豪雨の特徴は、強い雨



昨年秋の大雨で冠水した道路(両国新田地先)

9月6日防災訓練

近所さそいあって参加しましょう

の降り始めから災害発生までの時間がごく短いことです。地形的に災害の発生しやすい地域では、強い雨が降ってきたら嚴重な警戒が必要です。大雨警報や大雨情報には十分注意し、集中豪雨などの大雨災害に対する心構えを、日頃からしておきましょう。

1ミリの雨(10坪)の庭に

天気予報を聞いたりしていると、よく「雨量」という言葉を耳にします。雨量とは、文字通り地上に降った雨の量のことです。測定の仕方は、直径20センチの円筒を地上に置き、その中にたまった雨水の深さを、ミリメートル単位で測ります。

雨量1ミリというと少ないと感じる人が意外と多いようです。ところが、33平方メートル(10坪)の庭に、



1ミリの雨に相当する水をまこうとすると、18リットルのポリタンクで2本分の水が必要です。ですから、集中豪雨などで降る100ミリ、200ミリといった雨は、膨大な水の量ということがわかるでしょう。



大総地区で発生したがけ崩れ